

町田市庁舎跡地等検討委員会 委員会ニュース

最終号

2011年
12月

発行・町田市 編集・政策経営部企画政策課 企画政策課 042・724・2103
〒194-8520 東京都町田市中町 1-20-23
ホームページ <http://www.city.machida.tokyo.jp/>
・トップページ 市政情報欄の「本庁舎跡地利用」をクリック

■市長へ報告書を提出

町田市庁舎跡地等検討委員会は、2011年10月6日(木)の第6回委員会をもって、検討を終えました。

委員会では、これまでの検討結果をまとめ、2011年11月16日(水)に中井検裕委員長(東京工業大学大学院社会理工学研究科教授)から市長へ報告書が提出されました。

市ではこの報告書を受け、跡地活用の基本構想を2012年3月頃に作成する予定です。



▲報告書提出の様子

■報告書の内容

報告書には、跡地活用の基本的理念や、跡地活用の考え方・活用案などがまとめられています。なお、活用案については、複数案が提示されています。

基本的理念 「新たな賑わいの創出」

「賑わい」の方向性

- ①日常的な来街者を増やす「賑わい」
- ②憩い・交流の場としての「賑わい」
- ③人や文化を育む拠点としての「賑わい」

跡地活用にあたっての配慮事項

- ①庁舎移転後、速やかに施設整備を行う
- ②時代とともに変化するニーズに細やかに対応する

跡地活用の考え方・活用案

本庁舎跡地	中町第三庁舎跡地
<p>●活用案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋根つきイベント広場 ・多世代交流施設 	<p>●活用案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業支援施設 ・サテライトキャンパス ・バスターミナル* <p>※導入については、隣地との一体的活用を前提とし、交通計画の観点から慎重な検討を要する。</p>
<p>●活用の考え方</p> <p>貴重なオープンスペースを活かし、多くの来街者が集い、多様な人々が憩い・交流することを中心とした「賑わい」</p>	<p>●活用の考え方</p> <p>業務機能等の集積を図りながら日常的な来街者を増やす「賑わい」</p>

■第6回町田市庁舎跡地等検討委員会の検討内容

活用の考え方や活用案の絞り込みについての検討

第6回委員会では、2つの庁舎跡地の活用の考え方や活用案について意見が交わされました。

本庁舎跡地では、本庁舎の解体後速やかに広場として整備し、その後、屋根つきイベント広場または多世代交流施設を整備。敷地内における施設の規模は、実験的に跡地活用を行いながら決定していくこととしました。

中町第三庁舎跡地では、既存庁舎の活用を行いながら、中町第二庁舎跡地との一体的活用の可能性を検討し、その後本格的な施設整備を行うこととしました。

その他、委員会で挙げられた主な意見は下記のとおりです。



▲第6回委員会の様子

<第6回委員会の流れ>

1. 第5回委員会議事要旨の確認
2. 跡地活用の方向性の検討
3. 委員会報告書（イメージ）について
4. その他

【本庁舎跡地についての意見】

- ・屋根つきイベント広場と多世代交流施設との複合施設ができないか。
- ・震災時を想定すると、多くの市民が避難できるようなオープンスペースが必要だと思う。その観点だと、屋根つきイベント広場が良い。
- ・オープンスペースを設けるならば、公園的な広場にするのが良い。この辺りは緑が少ないと思う
- ・新たな賑わいを生み出すためには、何かをシンボリックに表現することが必要だと思う。今の町田市はビジュアルとして印象的なものが少ない。
- ・ソフト面の充実は重要だと思う。本庁舎解体後、広場で実験的にイベントを開催し続けることで、この場所に相応しい方向性が見えてくるはずである。

【中町第三庁舎跡地についての意見】

- ・企業支援施設よりも、サテライトキャンパスのほうが人の流れが増えそうで良い。
- ・中町第三庁舎跡地にも憩い・交流の賑わいが欲しい。小さくても構わないので広場があると良い。
- ・バスターミナルの整備については、町田市全体の交通計画の観点から考えなければいけないと思う。

委員の皆様、長い間お疲れ様でした！



▲町田市庁舎跡地等検討委員会委員と石阪市長（左から2人目）

- 委員会ニュースは、今号が最終号となります。
- 委員会の開催状況や資料をホームページに掲載していますので、併せてご覧ください。